

イタリアを訪問して

宮崎日本大学中学校1年 杉田 栄人

今回、僕は令和遣欧少年使節団としてイタリアに行かせていただきました。イタリアでは、イタリアの文化、食事や天正遣欧少年使節団の行った場所などを学びました。行った場所、全てがおどろきの連続でした。その中でも特に心に残ったことを紹介します。

1つ目は、2日目に行ったバチカン美術館とサンピエトロ寺院です。バチカン美術館は、歴代ローマ教皇の収集品を収蔵、展示する世界最大級の美術館です。バチカン美術館の入り口には、たくさんの人が並んでいました。中には古代の彫刻や天井画などが展示してありました。天井画などには、キリスト教に関わる物が多くありました。とても大きい美術館なので全部見ることは出来なかったです。展示してある絵はとても大きい物があり、天井に付きそうです。その後、システィーナ礼拝堂に入りました。中には人がたくさんいてとてもギュウギュウでした。壁全体に「最後の審判」の絵が描かれてあり、中央にはイエス・キリスト様が大きく描かれてありました。僕の心がじんじんしました。最後にサンピエトロ寺院に行きました。とても大きく、スケールがすごかったです。



2つ目は、3日目に行ったローマ教皇との謁見式です。ローマ教皇と聞くと、とても偉いイメージがあり、とても緊張しました。まずバチカン市国に行くと、どこまでも続く、とても長い行列ができていました。その最後尾に並び数時間たつとやっとバチカン市国に入ることができました。そこでは空港と同じように荷物検査が行われていました。会場に入ると、大きな会場でしたが人がたくさんいて窮屈そうでした。しかし、僕たちは、前の方の席に座ることができました。ローマ教皇がステージにいらっしゃると、みんないすの上に立ち、とても大きな歓声がおこりました。その時にあらためて、ローマ教皇の偉大さがわかりました。ローマ教皇が話をすると、いろいろな国の人たちが立ちあがって拍手をしていました。お話が終わると、僕たちはステージの下に案内されました。そこにローマ教皇が僕たちの方へいらっしゃってそこで僕たちに話しかけてくださいました。僕はローマ教皇と握手をしました。とても緊張したけれどとても手がやわらかく、心がポカポカして、ローマ教皇の優しさが伝わりました。



3つ目は、イタリアの食事です。昼や夜はレストランで食事をしました。見たことのない料理がたくさん出てきました。初めて食べる料理も、とてもおいしかったです。特においしかったのは、ベネチアで食べたイカ墨パスタです。食べていると口の中が真っ黒になっておもしろかったです。4少年も同じような物を食べていたとすると、僕よりも、もっと大きな衝撃をうけたと思います。トレビの泉で食べたジェラートは、冷たくてとてもおいしかったです。

4つ目は、交流です。3日目に行った現地学生との交流では、一緒に食事をしながら話をしました。最初はなかなかしゃべれず黙っていたけど、長崎県の男の子が一生懸命に話をしていたので僕もその会話に入ることができました。イタリアの学生の方はいつも笑顔で優しかったです。そのほかにもレストランの店員さんやお土産屋さんの人もきがるに話しかけてくれたり一緒に写真をとったりして、イタリア人は、とてもフレンドリーだなと感じました。



400年以上前に同じ年代のマンシヨ達は何ヶ月もかけてこのイタリアに来て、日本を世界に、そして世界を日本に伝えたと思うと、頭が下がる思いです。僕は、イタリアで学んできた事を少しでも多くの人に伝えていき、西都の偉人である伊東マンシヨを知ってもらいたいと思います。

今回、使節団に選ばれ、イタリアを訪問出来て非常に勉強になりました。この経験を今後の生活に役立てていきます。

また、市役所や先生方、中嶋団長さんを始めとする随行員の皆さん、一緒に旅をした長崎の中学生のお陰でこのような素晴らしい体験ができました。そのほかにも、地域の方々には支援していただき、ありがとうございました。





令和遣欧少年使節海外派遣事業を終えて

西都市立三納中学校3年 長友東紗



私がこの「令和遣欧少年使節団派遣事業」に応募した理由は、私の伯父さんが「伊東マンショ」という本をくれたからです。私はその本を読んで伊東マンショについてもっと知りたいと思い応募しました。そんな時、この海外派遣事業の応募用紙が学校で配られました。

この「天正遣欧少年使節ゆかりの地首長会議海外派遣事業」は、3年に1度行われていますが、前は2年前、ポルトガル訪問でした。そして今回はイタリア訪問。本当なら来年行われる予定でしたが、東京オリンピックの関係で1年早く行われる事になったそうです。私は「無理だろうな」と思いましたが、「チャレンジしないで終わるよりやってみよう！」と思い、作文を書いて提出し、面接を受けました。面接では、緊張して自分の意見をはっきりと答えられなかったので落ち込んで帰りました。でも、数日後「合格」の通知が来て、私はビックリしました。

今回、私達が行くイタリア訪問は5年ぶりだそうで、事前研修では、天正遣欧少年使節団の歴史を学び、宮崎県に住んでいらっしゃるイタリア人の方に、イタリア語の発音練習や、イタリアでのマナーを教えてくださいました。海外派遣事業の準備が始まり、うれしさからプレッシャーへと、どんどん大きくなっていきました。

出発の日、台風の影響で飛行機が飛ぶのか心配でしたが、無事、福岡空港に着き、長崎県の中学生10名と随行員の方々と合流し、香港経由で、イタリアに向け旅立ちました。宮崎からイタリアまで、合計約17時間飛行機の中で過ごしましたが、当時の伊東マンショから天正遣欧少年使節団は船で、約2年半の月日をかけてたどり着いたと聞き、自分達はなんて楽なんだろうと思いました。

イタリアに着き、映画や写真でしか見たことが無かった景色や建物に圧倒され、夢中で写真を撮りました。滞在中は、天正遣欧少年使節団と関わりの深い場所や古い建造物など、様々な素晴らしい所に行きました。

その中でも印象に残っているのが、ミラノにある世界最大級でゴシック建築のドゥオーモです。ドゥオーモは実に500年もの年月を費やし、沢山の芸術家によって完成されたそうです。その体積は世界で2番目に大きい建造物です。ドゥオーモの中には沢山の銅像や、沢山のキリスト教の物語が描かれたステンドグラスがありました。私は、その中でも「聖バルトロマイの皮剥ぎ像」に惹かれました。イタリアの美術館や博物館には、皮剥ぎ像が沢山あって、いろんな皮剥ぎ像を見たけど、このドゥオーモの皮剥ぎ像はすごくリアルで正面からは見えませんが、斜めから見ると皮を背中に抱えているのがよく分かりました。この銅像は、ペストなどの伝染病から人々を守ってくれと今も信じられているそうです。



そして、今回の訪問で一番緊張したのが、バチカン市国でのローマ教皇に謁見する事でした。ローマ教皇は、千人ほども居る人達の真ん中をゆっくりと笑顔で歩かれて、私達、使節団の所に来てくださいました。

優しい笑顔で私達に話かけてくださり、「また日本に行きたい」とおっしゃり、握手をしてくれました。私は夢中でローマ教皇の写真を撮りました。

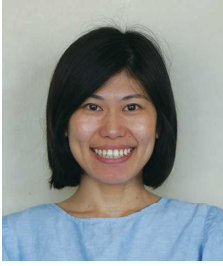
その後、イタリアの中高生との交流会がありました。色々、話してみたりし、英語が苦手なので苦労しました。改めて英語の必要性が分かり、もっと勉強しようと思いました。

私は今回、実際にイタリアに訪問し、伊東マンショのすばらしさに気づきました。日本からイタリアに行った天正遣欧少年使節団の中から選ばれリーダーになり、他のメンバーを引っばっていくことができた伊東マンショのことを聞いて、私は、宮崎の代表として行くことがどれだけすごいことかということを知り、これから胸をはってイタリアの話などを後世に伝えたいと思いました。

私は、今回の令和遣欧少年使節団海外派遣事業で、一緒に行った長崎県の中学生と、現地交流会で知り合ったイタリア人学生と、帰国した今でも SNS で交流しています。これからも、この知り合った人達と交流を続けて、またイタリアに行きたいです。

今回の派遣事業で沢山の皆様にご支援頂きました。お世話になりました方々全員に心より感謝致します。ありがとうございました。





天正遣欧少年使節ゆかりの地を訪れて

西都市商工観光課 小川 美智

天正遣欧少年使節ゆかりの地海外派遣事業の随行員として、8月5日から8月12日の8日間で、イタリアのローマ・フィレンツェ・ヴェネチア・ミラノの4都市を訪問した。

宮崎空港から福岡、香港を経由し、ローマへ。香港でのストライキの影響を受けることなく、順調にローマまでたどり着くことができた。

空港からそのままローマ市内に移動し、まず、サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂の見学へ。ここは、伊東マンショら少年使節のメンバーが賓客として参加したという、ローマ教皇シクストゥス5世の即位式が行われた場所。実際に、伊東マンショらがシクストゥス5世の即位式を見たであろう場所から大聖堂を見て、当時の様子を想像した。



その後、コロッセオ、トレビの泉、スペイン広場など、ローマ市内の名所を訪れた。ローマの街には、古代ローマ時代の遺跡から100年ほど前に建てられた建物まで、様々な年代の建物が混在している。どこまで続いているような巨大な遺跡や日本では見ることができない重厚な石造りの建物に覆われた街並みを歩きながら、改めて異国の地に立っていることを実感した。伊東マンショらも、日本とは全く違うローマの街並みを見て、同じように感じたのだろうか。

午後は、世界最小の国、バチカン市国に入り、バチカン博物館、システリーナ礼拝堂、サンピエトロ寺院を見学。バチカン博物館内には、古くは古代ギリシャ時代からの彫刻や絵画がひしめきあうように並べられていた。



3日目となる7日は、ローマ教皇に謁見。会場には入りきれないほど多くの人が押しかけていたものの、事前に調整いただいたおかげで、私たちは前の方の席でお話を聞くことができた。ローマ教皇がお話された内容は、ほとんど分からなかったが、日本から謁見に来ているとお言葉があり、嬉しく思った。お話の後に、私たちはステージの下に案内され、ローマ教皇が近くに来てくださった。一緒にグループ写真に入ってください、中学生と握手をして下さった。柔らかかにほほえみかける表情からローマ教皇の優しいお人柄がにじみ出ており、畏れ多い存在ながら親しみを感じた。

その後は、昼食をとりながらのローマ市内の中高生との交流会。大人びた容姿のイタリアの中高生を前に、緊張気味だった日本の参加中学生も、途中からは携帯電話の翻訳機能を使ったりしながら、懸命に会話していた。最後には、別れを惜しんで一緒に写真を撮り、連絡先を交換している様子を見て、中学生の柔軟性の高さを実感した。

その後、テルミニ駅から新幹線に乗り、新幹線でフィレンツェへ。



4日目、8月8日は朝からウフィツィ美術館やヴェッキオ宮殿を訪れた。ウフィツィ美術館では、有名な「ヴィーナスの誕生」「春」など、ルネサンス期の有名な絵画を鑑賞。ヴェッキオ宮殿は、少年使節が滞在した場所である。壁や天井の内装の豪華さに、当時の優雅な生活がうかがえた。

フィレンツェでの滞在は、あっという間に終わり、バスから水上タクシーに乗り継いでヴェネチアへ。

5日目、8月9日は、サンタ・マリア・デッラ・サルウテ教会やアカデミア美術館、サント・ステファノ教会、リアルト橋を見学。今は大理石で作られているリアルト橋は元々、木製の跳ね橋だったそうだ。アカデミア美術館の絵画の中には、少年使節がヴェネチアを訪れた頃のヴェネチアの様子が描かれたものもあり、当時の様子をうかがうことができた。サンマルコ寺院など、当時から姿を変えず残っている建物を見て、改めて、伊東マンショらが見たものと同じものを、自分たちも見ていることを実感した。

ヴェネチアでは、ゴンドラの体験もした。迷路のごとくはりめぐらされている用水路のような川を進み、レンガ造りの建物の間を抜けるとヴェッキオ橋がかかる大運河に出る。ゴンドラに乗りながら、有名なヴェッキオ橋を眺め、優雅な気分を味わった。

ヴェネチアには、もう一泊し、8月10日、朝からミラノへ。来たときとは逆に、水上タクシーからバスを乗り継いで移動した。

ミラノでは、ヴィットーリオ・エマヌレーエ2世のガレリア、ドゥオーモ、スカラ座を訪れた。両脇に高級ブランド店が立ち並ぶヴィットーリオ・エマヌレーエ2世のガレリアを抜けると、イタリア最大級のゴシック様式の教会、ドゥオーモが姿を現す。500年の歳月をかけて建てられたドゥオーモ。ちょうど、遣欧使節が訪れたときには、建設中。ガレリアも19世紀に建てられたものなので、きっと、私たちが見ているミラノの様子と伊東マンショが見たミラノの様子は、ほとんど違うものだっただろう。

8月11日、ミラノ空港からイタリアを後にし、往路と同様、香港、福岡を経由し、12日夕方、宮崎空港へ帰ってきた。帰路についても、台風や香港のデモの影響を受けることなく、無事に宮崎空港に到着したときには、安心した。1週間ほどの旅でさえ、帰国したときには、これまでにないほど安堵したのだから、数年間日本を離れて帰国した遣欧少年使節たちは、今の私たちでは考えられないほどの気持ちだっただろう。

今回のイタリア訪問では、事務局の波佐見町はじめ、多くの方の入念な準備のおかげで、ローマ教皇の謁見を含めた貴重な経験をさせていただくことができ、とても感謝している。

今回訪問した4つの都市は、それぞれ全く異なる雰囲気だったことが印象的だった。現在は1つの国として統一されているイタリアも、当時は別々に統治されていたというのも納得できる。

また、イタリアを訪れたことで、遠い過去の歴史として捉えていた伊東マンショら遣欧少年使節を、実際の人物として身近に感じられるようになった。海外派遣に際して、事務局となった波佐見町をはじめ、長崎県の各市町の随行員の方、旅行会社の方、現地のガイドの方など、ご尽力頂いたすべての方に感謝を申し上げたい。

そして、一生に一度の経験となるようなローマ教皇の謁見を含め、イタリアでの貴重な1週間を過ごした中学生たち、彼らには、今回の派遣を通じて得たものをこれからの自身の人生に役立て、周囲へ還元していくことで、天正遣欧使節のように歴史に残る貢献をしていくことを期待している。

